

# 御岳百景

## 第25号 武蔵御嶽神社の滝行



滝行とは、必ず身につく自身の罪穢れと向き合い、水で清めること。  
 神坐す山「御岳山」では昔、神聖な場所に立ち入るものは皆(当時は修験者や山伏と呼ばれる)、  
 滝行をし、心身を清めてから入山するものでした。  
 そのため、御岳山に上がる参道の麓には必ず滝(沢)があり、今もその地名が残っています。  
 ひとつは現在の表参道「南御坂」、もうひとつは江戸時代まで主に使われていた「北御坂」。  
 どちらも麓に「滝本」と呼ばれる場所があり、褌をおこない、山に入っていたようです。  
 現在ではそのようなことはなくなりましたが、御岳山の山奥に位置する「七代の滝」「綾広の滝」では  
 今でも武蔵御嶽神社の神職による滝行を体験することができます。  
 あっという間に流れていく日々の中、ふと足を止め、身についた罪穢れに向き合える「滝行」が、  
 この先も遺っていてほしいと願いを込めて「武蔵御嶽神社の滝行」を御岳百景に認定します。

体験をご希望の方は、武蔵御嶽神社までお問い合わせください。※夏季限定

## 御岳山でちょい



“ちょい”とは御岳山の方言で“休憩する”という意味♪  
厄除けのおいぬさまといつも一緒に!

御岳山の山頂「武蔵御嶽神社」の社務所では、通称「おいぬさま」として親しまれている  
大口真神のご利益が頂けるお守りなどのお取り扱いがあります。厄除けの神さまと  
知られるおいぬさまを身につけて、災いから身を守りましょう!

### ちりめん ペットの御守



ご主人様とワンちゃんがお揃いで身につけられる  
健康長寿・交通安全祈願のお守り



ワンちゃんの首輪に付けるお守りも↑

### 武州御嶽 トートバック



作家さんの手がけた大口真神印のトートバック!  
普段使いしやすい  
2色展開が嬉しい!

### 交通安全御守護ステッカー



大口真神のお札と同じ  
おいぬさまが描かれた  
交通安全のステッカー



社務所をのぞいてちょいしてみて!

刊行東京都御岳ビジターセンター「木もれび」 2025年冬号 vol.25

東京都御岳ビジターセンター自然解説員作成 2026年2月発行

所在地: 〒198-0175 東京都青梅市御岳山38-5

TEL 0428-78-9363 FAX 0428-78-9445

開館(9:00~16:30) 休館(月曜日 ※祝日の場合は翌日)



バックナンバーはこちらから♪

御岳ビジターセンターが照らす...

# 木もれび

vol. 25

2026 冬号刊行

特集

## 御岳山に 生き続けるオオカミ

▼御岳百景  
「武蔵御嶽神社の滝行」

▼御岳山でちょい  
「厄除けのおいぬさまといつも一緒に!」



御岳山に

生き続けるオオカミ

かつて御岳山にもオオカミがいた。  
その存在は今もおいぬさまの信仰という形で残る。  
御岳山とオオカミとおいぬさま、その伝説や今昔をご紹介します!



## 御岳山でみられる「おいぬさま」

おおくちまがみしゃ  
大口真神社

境内最奥にある大口真神社は、ヤマトタケルの東征の難を助け御岳山を守るように言われて以来、オオカミが大口真神として祀られている。魔除け、盗難除け、火難除けとして広く知られ、「おいぬさま」と親しまれるようになった。祭礼の日（毎年1/3、5/15、9/29）にのみ授与される御朱印もある。



社殿の前にはオオカミのための水を入れる器がある



祭礼の日の御朱印

ごきとう  
犬の御祈祷

「おいぬさま」にちなみ、愛犬も一緒に参拝することができる。犬が入れる神社は珍しく、多くの人が犬と一緒に御岳山に参拝に訪れている。神社では愛犬祈願を行ったり、愛犬の穢れを払う形代を配布している。オオカミ信仰は現代に合わせて変化しているものもある。



愛犬祈願所（神楽殿横）

こまいぬ  
本殿前の狛犬

本殿の前にある狛犬は1783年に作られたブロンズ製。狛犬と言えば獅子のような姿のものが多いが、これはオオカミを象っている。



オオカミの狛犬

紙面左上の写真は大口真神社。オオカミがこちらを見ているかも？社殿の彫刻も見事です♪本殿の狛犬は柵の隙間からも見えるので、ぜひのぞいてみて！

## オオカミの頭骨が伝わる宿坊もある！



魔除けや病気除け、お祓いの道具や薬として使用されたと言われている。



御岳山内でよく見かける愛犬と一緒に参拝する方、集落内の家々に貼られた犬のような絵が描かれた御札...これは御岳山ならではの光景。そして描かれた犬は実はオオカミ。古来「大神」とも言われ信仰されてきたオオカミは、かつて御岳山や日本各地に暮らしていたが、明治時代末期に姿を消した。そんなオオカミと共存していた御岳山では、今もオオカミの存在を感じる。御岳山とオオカミの繋がりとは・・・？

# 御岳山に生き続けるオオカミ

## なぜ御岳山にオオカミ？



ヤマトタケルが東征の際、邪神が大鹿となって道を塞いだ。ヤマトタケルはヤマビルで大鹿を退治したが、そこで雲霧が発生し、道に迷ってしまった。そこに現われた白狼がヤマトタケルを導いたところ、ヤマトタケルは白狼に『大口真神』として御岳山を守るように言ったという。

## おいぬさまの御札

大口真神の御札は、江戸時代頃から御師によって広まったと言われる。魔除けとして家の出入口に貼ったり、作物を荒らすイノシシやシカなどを追い払ってくれるよう畑に貼ったり、関東一円で広く信仰されている。現在も武蔵御嶽神社で配布されている。



目は月の形。日本三御嶽の「雪の御嶽（木曾）」、「花の御嶽（甲府）」と並び、「月の御嶽」と呼ばれる。



畑にお札を立てている（青梅市内）

## 御岳山に残るオオカミの昔話

『青梅市の民俗（第2分冊）』より

### 送り狼

「人が行くと狼がついて送り迎えをした。狼は人が転ぶと食べるというので、狼に送られると緊張して転ぶないように気を付けたという。この狼は日本武尊を助けた一番有難い、けもの神様。」



### 猪とら話

「日の出村という所に“とらさん”という猟師がいて、猪や熊、うさぎなどを捕って生計を立てていた。そのとらさんが富士峰のお墓の近くで一匹の狼目がけて鉄砲を打ってしまった。すると後ろにある石碑と思ったものが全部狼になり、山が振動し、唸り声がひどくなった。そこで山の36人の神主が御祈願したという。」



御岳山に残るオオカミの痕跡は、かつてここにオオカミが確かにいたことを感じさせる。そして今も続く信仰は、オオカミが御岳山を見守ってきたことの証でもあり、形を変えながら時代を超えて御岳山とオオカミは今も共存している。